

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援さくらボViitta(多機能型事業所)		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	R7年11月1日		～ R7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員それぞれの経験や資格を活かして、より対象児の特性や個別性を捉えた支援計画と支援プログラムの立案が強みである。有資格者を積極的に配置することで、資格取得の中で学んできた対象のアセスメント・指導計画立案・評価の知識が活かされ、質の高いプログラムが提供できている。	研修の積極的な実施や受講助成により、職員の質の向上に努めている。無資格の場合でも仕事継続のモチベーションになるように資格取得を支援している。法人のネットワークを活用し、専門的なアドバイスが得られる体制を整えている。	経験年数の長い職員や専門職の配置により、教育・保育の観点だけでなく、身体機能や保健学的な視点での支援プログラムの実施につながっていると考えている。
2	こどもを取り巻く環境へのアプローチを意識し、関係機関や保護者との連携を重要視している。	事業所では問題がなくても園・学校や家の中で問題が生じている場合があるため、保護者との情報共有を大切にしている。時には、生活リズムの改善や家庭での取り組みなど協力いただくために保護者に助言することもしている。	保護者同士の交流・きょうだい児への支援も考慮した機会を提供して行く。
3	こどもが安心して安全に通える施設であること。送迎も含め、安全管理を徹底し、保護者や関係機関からの信頼が得られていると考える。	職員への接遇研修、チームビルディングのための取り組みを行い、働きやすい環境を整えることで、職員のモチベーション向上と支援の質の向上につながっていると考える。	組織体制と役割分担の見直しにより、職員への負担の偏りをなくし、それぞれが責任を持って業務を遂行できる体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の開催等、保護者同士や兄弟児の交流機会を設けるなどによる家族への支援が不足している	昨年までの評価では他の保護者との交流を求めているという意見もあり、今年度は個別の相談対応などの家族支援に重点を置いていた。	次年度は保護者対象の研修会(テーマ:防災・教育相談・発達相談)を定期的実施する計画を立てている。保護者同士の交流による情報交換の促進に寄与する。
2	完全に周囲の音を遮断できるような個別スペースがほとんどない。	基準人員以上の配置をしており、スペースが手狭に感じられることがある。また、下校時間が重なっており、一度に利用する児の数が急激に増えている。	自己通所の児の利用時間の調整や、支援プログラムの見直しにより、施設利用場所や時間を分散化できるようにする。
3	HPやブログ、SNSを活用した事業所活動の公表が必要である。	個別の活動報告はSNS上でおこなっているが、運営体制の問題で定期的なブログ更新ができなくなった。また、ブログの利用を中止した。	HPを有効利用し、次年度は情報発信を定期的に行えるような体制を整えている。